

国文学研究資料館報

第52号
平成11年3月

エージェンシー問題と 韓国所在国書調査と

松野陽一

当面する問題は多いが、二点にだけ絞って述べておきたい。

昨年秋から、行政改革のエージェンシー化(独立行政法人化)の問題が顕在化し始めた。国立機関から離れるという話であるから、無論重大問題である。その後、情勢にはさまざまな変動があったが、これを書いている一月末現在では、当館もそのカテゴリーに入っている国立大学については二〇〇三年まで決定が延期されることになった。ただ、大学共同利用機関だけは分離して扱われる可能性があり、中央省庁等改革推進本部の審議の推移を強い関心を以て見守っているところである。問題は、設立の目的や業務の成果、評価について

の本質的議論が無のままに事態が進行してしまうことへの危惧である。国文学研究資料館が果たしている社会的な役割りと将来にわたる使命と考えているところが客観的に評価に堪えるものであることは機会ある毎に主張して行きたい。

八世紀から十九世紀に至る千二百年間に、国内で著作され、印刷された書籍の全てを書誌学的に悉皆調査、研究し、マイクロフィルムで収集し、国内のみならず世界中の日本学研究者の利用に供するというのが、当館の基本業務である。複写材料については、映像・音声資料への拡大も当然予測されるので、フィルムから電子媒体へと移行してゆくであろうが、日本

エージェンシー問題と
韓国所在国書調査と 松野陽一 …… 1

文庫紹介 29 …… 2

公開講演会の報告及び次回予告 …… 3

平成10年度共同研究追加 …… 3

新収和古書抄 平成10年 …… 4

平成11年度共同研究 …… 5

特別共同利用研究員の受入れについて …… 6

夏期セミナー受講生の募集 …… 6

巻報 …… 7

利用者へのお知らせ …… 9

平成11年度春季学会 …… 10

文化の基盤資料である古典籍を整理して提供して行く当館の社会的使命は、百年の継続する時間を単位として果されて行くであろう。

大学共同利用機関の大学院(博士課程のみ)である総合研究大学院大学には、十四機関中第二番目に設立された歴史を持ちながら、当館は加入してこなかった。様々な事情がからんでいたからではあるが、国公立にわたる大学の組織改革の動向の結果、基礎学としての国文学を支える人材養成に危機的状況が到来したことは明らかで、文献資料を精確に扱える文学研究の後継者養成に当館が関わるべき時が来たと考ええる。人文系四

機関のうち、既加入の国立民族学博物館、国際日本文化研究センターに続いて、新年度からは国立歴史民俗博物館の参加が予定されている。先のエージェンシー化問題への対処に際しても、人文系機関

の結束が必要で、経済的効率の基準に傾きがちな気運を撥ね返す力の一翼を担いたい。無論、この問題以前から準備は進めてきたところであるが、テンポを早める必要がある。「大学院設置準備委員会」でまともを急いで貰っているところである。

昨年六月に中国国立大連市図書館、九月にソウル大学校中央図書館、韓国国立中央図書館を訪問した。大連では旧満鉄図書館本、西本願寺本、ソウルでは旧京城帝大図書館本、朝鮮総督府本の現状の全貌をそれぞれ書庫で拝見させていただき、各館長と今後の調査、収集に関して懇談してきた。大連は大連外国学院に客員で赴任されている横山邦治氏の徳池によって張本義館長の高配を得たのであったが、旧満鉄図書館の建物への移転を控えて、本格的な調査に入るにはまだ若干の時日も要しそうで

ある。ソウル大では、九大の松原孝俊、中野三敏氏を中心とするグループによる旧京城大本の調査に加わった上で、泰教勲館長と懇談し、当館による調査・収集についての基本的合意に達した。見返りに、韓国研究者の日本国内所在の韓国資料の調査に協力することになり、来年度の客員教授に、崔承熙ソウル大教授を迎えることとなった。旧総督府本についても、鄭基永国立中央図書館長から同様の意向をいただくことができた。

韓国・中国の日本関係図書は、日本人研究者・図書館員がかなりの年月にわたって巨費を投じて蒐集しており、推定七十万冊に及ぶ蔵書は、量の点で言ってもその他の図々所在の図書とは比較にならない。従って国際科研の範囲では処理できないことは明らかなので、国内に準じた扱いで事に当たるべく、正規の予算を組んでいたように要請、新年度からは早速準備調査に入る予定である。当館では早くからこの問題に取り組んだ歴史がある。しかし、ソウル大に関しては昭和57年、収集の件で交渉が挫折、旧台湾帝大本については昭和58年に調査完了し、目録作成

までしながら配布禁止という不本意な形で中断している。いずれも政治問題などがからんだ外的な原因によるものであった。

今般、韓国に関しては、昨秋の金大統領の来日に関連しての雪解けの状況好転も幸いしたと思われるが、両館長の識見と御好意によって扉が開かれたわけである。

視察した各図書館とも、図書は極めて良好な状態で管理されている。確認した範囲では一九四五年以前の段階のまま保存されている。各国とも極めて困難な状況にあったわけであり、その中で今の状態に守り続けて下さった館員の方々の御努力は並大抵のことではなかったはずである（図書の戦乱中の疎開のことなどその一端をうかがうことができた）。心からの感謝と敬意を表したい。秦館長の「これは世界中の人々の文化財です。誰もがいつまでも利用できるようにして行きたい」という言葉を肝に銘じて事を進めてゆく所存である。

(館長)



文庫紹介②

西尾市岩瀬文庫

市内屈指の豪商山本屋の家督を継いだ岩瀬弥助は、日常生活では儉約を専らとしつつも、書籍収集には情熱をそそぎ、明治四十一年五月六日、岩瀬文庫を創設した。弥助は、明治二十年頃から、古書店主が窮乏している年末に、現金で本を一括購入、特に自筆本や古版本には金に糸目を付けず買入れたという。

岩瀬文庫には、各分野にわたる蔵書が約八万余冊あり、古版本・写本等にも優れたものが蔵されている。筆者の専門である近世草双紙や演劇関係の蔵書も多く、西沢一風著「伝奇作書」の手稿本や、柳亭種彦蔵本を石塚豊芥子が手写した「古今役者物語」（園田学園女子大学論文集）13号で、武井協三氏が影印翻刻及び解説）、裏表紙見返しに朝倉無声が「鳥居清経自筆稿本であろう」と記した黒本「大幸浮世盆」（「叢」14号で、有働裕氏が影印翻刻及び解説）等、貴重なものがある。

一言でいえば、「何が出てくるかわからない魅力」に富んだ文庫である。筆者は十年前に「役者舞台似顔」という手彩色役者大首絵

の板本を見付けた。これは初代歌川国真画かと思われるが、或いは後世模写して板行したものかもしれない。描かれた役者の中で「岩井杜若」とあるのは、五代目半四郎が天保三年十一月から名乗った名。「中村芝翫」は四代目歌右衛門が天保六年末まで名乗った名。故に天保三年十一月～六年末までに描かれたものとするのが一つの可能性として想定できる。裏表紙に「新川鹿島氏旧蔵」とあり、鹿島清兵衛旧蔵か、と考えている。

昭和十一年に作成された「岩瀬文庫図書目録」は数回再版されたが、なお新たな目録の作成計画や、マイクロフィルム化、マイクロフィルム活用システムの導入計画があると聞く。

岩瀬文庫は名古屋から名鉄西尾線で西尾駅（特急・急行停車）下車。タクシーで五分。月曜日、祝祭日、年末年始休館。

〒441-6404 西尾市亀沢町四七四
西尾市教育委員会文化振興課文化財係 電話 〇五五二一六六〇 西五
FAX 〇五五二一六七一〇

(文献資料部 山下則子)

公開講演会の報告及び次回予告

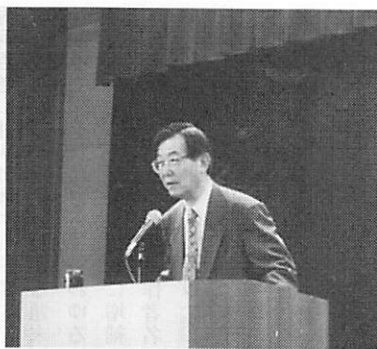
源氏物語講演会

—宇治橋の長きちぎりは—

昨年十二月十九日、宇治市の源氏物語ミュージアムと共催で、源氏物語講演会が行われた。同ミュージアムが十一月に開催した直後の記念行事の一つでもあり、事前予約制を取ったが、約二三〇名の来聴者で予想通り満員となった。講演会場となった宇治公民館は、宇治橋のもとに位置し、源氏物語ミュージアムに近く、周辺には宇治十帖の旧跡も多い。講師及び演題は、「源氏物語の本文とは何か」大阪大学文学部教授の伊井春樹氏、「宇治の中君—紫式部の人物造型—」鶴見大学名誉教授の岩佐美代子氏であった。いずれも深い読みを支えられた、研究の最先端と新たな解釈の提示であると同時に、作品を読むとは何か、本文とは何かを、端的に魅力的に語った講演であった。この講演の内容は、従来と同様に、「国文学研究資料館古典講演シリーズ」として、近いうちに臨川書店から刊行される。



岩佐美代子氏



伊井春樹氏

第十一回春期公開講演会

今回の公開講演会は、「劇化された重記」というテーマで、五月二十八日(金)一時半から、国文学研究資料館大会議室で開催される。講師・演題は左記の通り。来聴自由。申し込み不要。

・あの世からふりかえって見る戦の物語

法政大学能楽研究所助教授

山中玲子氏

・義経の最期をめぐる物語

—「和泉が城」「高館」—

大谷女子大学文学部教授

小林健二氏

・「歴史」確認のドラマ

—知盛と実盛—

明治大学文学部教授

原 道生氏

春期通常展のお知らせ

五月二四日(月)から六月二五日(金)まで、右の講演会テーマに関連して当館所収の演劇資料展を行う。五月二八日(金)正午より、六月十八日(金)午後二時よりの二回、ギャラリー・トークがある(武井協三当館助教授担当)。ギャラリー・トーク当日展示され

る資料は、「金春禅竹自筆能楽伝書」古活字版「阿弥陀胸割」「古今操便覧」他数十点の予定。

平成10年度共同研究 追加

西洋の絵はがきに見る日本

ベーター・パンツァー

(国文学研究資料館客員教授)

猿渡紀代子(横浜美術館学芸課長補佐)

白幡洋三郎(国際日本文化研究センター教授)

福田 秀一(国際基督教大学大学院教授)

真鍋 一史(関西学院大学教授)

山下 則子(国文学研究資料館助教授)

明治時代における倫理思想の比較研究

陳 小 峰(国文学研究資料館客員助教授)

鹿島 徹(早稲田大学講師)

黒住 眞(東京大学大学院教授)

小泉 仰(慶應義塾大学名誉教授)

竹内 整一(東京大学教授)

竹田 純郎(金城学院大学教授)

陳 捷(東京大学大学院生)

陳 力 衛(白学園女子短期大学講師)

中島 隆博(立命館大学助教授)

渡辺 浩(東京大学教授)

渡邊 和靖(愛知教育大学教授)

佐藤 豊(愛知教育大学助教授)

高柳 信夫(学習院大学助教授)

錢 鷗(同志社大学講師)

陳 継 東(東京学芸大学非常勤講師)

鈴木 淳(国文学研究資料館教授)

新収和古書抄 平成10年

永久四年百首（抄出本）

室町末期写一冊。全体に裏打ちあり。書写奥書はなく、明治元年の買得識語を有する。後に行くほど一題あたりの採録歌が少なくなる抄出本で、総歌数は三百九十二首である。

行相法教誡新学比丘護律儀

釈道宣の教誡新学比丘護律儀（教誡儀）の注釈書。円意撰。成立応永十年。明応五年、円心書写。新比丘の心得べき作法を廿三法四百六十六条に分ち述べたのが、釈道宣の教誡新学比丘護律儀である。我が国には円珍の伝えた旧本と俊仍の伝えた新本（重修本）の二系統の伝本があり、本書は旧本により、重修本との本文の異同を詳細に挙げ、比較文献学的な注釈をなす。奥に道宣の序文が備わり、之にも注が施される。十数本にのぼる教誡律儀の注釈史上、特筆すべきものであろう。渋谷目録に応永廿二年、朝恵写、来迎寺蔵本が著録される。書誌。改装古様白茶表紙、大本袋綴じ一冊。法量は縦廿七・七、横廿・四種、墨付き卅

八枚。楮紙每半葉十二行。
古今著聞集抜書

江戸後期写二巻。いくらか金銀泥の裝飾ある料紙。内容を示す題目等はないが、著聞集の草木部・魚虫禽獸部・哀傷部・和歌部・武勇部からそれぞれ数話（計十八話）を抄出したもの。抄出の基準は明らかでない。

堀河百首（注入り本）

江戸初期写一冊。いわゆる題末付注本で、それにさらにいわゆる書入本系統の注が朱で行間に増補されている。別筆で各歌に作者名を付す。続古今集までの集付（朱）あり。祖本は三巻仕立てか。末尾に錯簡あるも完本。

阿弥陀胸割 版（古活字）一冊

大本、寸法二七・一×十九・一。種。栗皮表紙。題籤、外題なし。内題・尾題なし。本文冒頭「さても其後でんちくのかたはらにむねはりあみたとて」云々。每半葉十行。平かな連続活字・漢字活字使用。無訓。絵入り。無刊記（近世初期刊）。件の作品は近世初期の浄瑠璃・説経浄瑠璃の代表的な作

品で、先学の詳細なご研究が具わ
る。しかし本資料自体に関しては
極めて伝存稀少であり、今後の研
究の進展を待つものである。

職原抄 写一冊

慶長五年三月二日写。北畠親房著「職原抄」の関東系付注本。この系統で書写年次を記するものはきわめて稀。また、同書の安保・富田両流を兼習した足利学校本系とは異なり、安保殿流のみの系統を伝える。関東系注釈は、慶長四年三月の関西（堂上）系注釈による勅版刊行により忘却されるが、本書は関東系享受の最下限を示す好資料である。墨付六二丁。二六・七×一八・七cm。外題「職原抄 上下」。冒頭の注釈伝流の記

事他、本文に朱墨傍訓多数。

寛永行幸記 刊 二巻二軸存

寛永三年、後水尾天皇の二條城への行幸の様子を絵入りで記録したものの。烏丸光広撰。古活字版。本来三巻のものだが中巻を欠く。本書は料紙の継ぎ目に丁数が入っているところから、「古活字版之研究」にいう第二種本にあたる。尚本館には古活字版の覆刻である手彩色整版本三巻三冊を所蔵。

天目中峯和尚広録 三十巻六冊

元中峯明本撰。慈寂等編。每半葉10行、20字、付調整版本。本書には五山版が存在するが、江戸に入り、寛永六年、八年、十二年の刊記のある本が知られる。本書は寛永二十年の刊。刊記は「寛永癸未九月吉祥日／二条通玉屋町村上平樂寺開板」。

山之井 大本

正保五年正月の刊記を持つ大本の「山之井」はこれまで二例しか報告されていない稀本。夏之部を欠く残四巻を一冊に合綴するが、刷及び保存は既報告本と同程度。北村季吟二十五歳の第一著作として貴重な一書である。

太閤記 刊 二十二巻二十冊

刊記に「万治四年卯月吉辰／烏丸通下立売下ル町 吉文字屋板行」とある。「太閤記」の刊本には寛永無刊記本の系統とそれに補入をいれて版を改めた正保三年版本の系統があるが、本書は正保版の板木を使い刊記のみを入木したものの。万治四年の刊記を持つものにはほかに書肆が菱屋治兵衛のものと同山田参郎兵衛のものがある。本来は二十二冊だが、巻二と巻三、巻二十一と巻二十一をそれぞれ合綴して現状は二十冊。

法華玄義聞書抄 版 十卷八冊。

日遠著、大本、寸法二七・一×十八・八極。後補香色布目表紙、題簽・外題なし。卷首題「玄義卷第一聞書」、卷八尾題「玄義聞書抄卷題八」。刊記「寛永二十一年正月吉辰ノ要法寺前町ノ堤六左衛門尉開板」。日遠著述の日蓮宗学の版本は、日蓮宗の檀林(僧侶の学問所)の整備に伴って、殊に寛文年間を前後して多くの需要をもった。本資料はそれに先立つもので、寛永最末年の仏書としては摺刷・保存とも良好なもの。

光琳画譜

刊二帖。画帖仕立て。黄色表紙に題簽を存し、保存は良い。乾帖十四折、坤帖一三折。色相は全体としてややくすみを帯びる。刊記は「東都書林金華堂守黒蔵」で、初印本に同じ。ただし初印本は享和二年中村芳中跋刊であるが、掲出本は文化年間の印行。なお光琳画譜は、近世後期の琳派復興のきっかけとなったとも考えられる絵本で、たらし込みという特殊な技法を印刷上に再生させたことで知られ、搦工名を明記するなど、とくに色刷のことに意を用いた。加藤千蔭の序に川上不自の跋を具え

る。

大社縁結図 大判錦絵三枚続

三代目歌川豊国画。嘉永四年十一月の改印。江戸両国広小路林屋庄五郎(林庄)板。天照大神・猿田彦大神・八俣大蛇・神武天皇等三十の八百万の神々等が役者似顔絵で描かれる。八代目市川团十郎・五代目市川海老蔵・二代目坂田佐十郎・四代目中村歌右衛門等。当世好男子伝 大判錦絵六枚

三代目歌川豊国画。安政五年七月改印の続絵三枚と、安政六年八月改印の続絵三枚。林屋庄五郎板。彫師横川竹二郎。役者似顔絵で描かれる日本の侠客を、中国の「水滸伝」登場人物に見立てたもの。例えば初代河原崎権十郎(九代目团十郎)の腕の喜三郎を、虎の刺青、竹模様の小袖、「景陽」と書かれた团扇を持つ姿に描き、武松に見立てた謎解きをするもの等。

古今操便覧 上・下巻 他六冊
竹本撰津大掾旧蔵の浄瑠璃番付約五〇〇点の張込み帖。最古の番付は元文三年。「義太夫年表近世編」未収の番付を多数収録する。五月二四日〜六月二五日、当館にて展示の予定あり。

平成11年度共同研究

「後素集」の総合的研究

- 中本 大(立命館大学助教)
- 岩山 泰三(早稲田大学大学院生)
- 小助川元太(立命館大学大学院生)
- 綿田 稔(山口県立美術館学芸員)
- 住吉 朋彦(宮内庁書陵部研究員)
- 山崎 誠(国文学研究資料館助教)

テニハ秘伝の研究

- 根上 剛士(東洋大学教授)
- 大谷 俊太(奈良女子大学助教)
- 大村 敦子(武庫川女子大学非常勤講師)
- 近藤 泰弘(青山学院大学助教)
- 鈴木 順子(青山学院大学大学院生)
- 鈴木 元(熊本県立大学講師)
- 武井 和人(埼玉大学教授)
- 西田 正宏(大阪女子大学助手)
- 綿坂 豊昭(図書館情報大学助教)
- 浅田 徹(国文学研究資料館助教)

中世文芸作品と仏教との関係に関する学際的研究

「小栗」を素材として

- 松尾 剛次(山形大学教授)
- 末木文美士(東京大学教授)
- 吉村 均(財)東方研究会研究員
- 米井 輝圭(文化庁専門職員)
- 和田 恭幸(国文学研究資料館助手)

中野真麻理(国文学研究資料館助手)

うつつほ物語とその周辺文学の研究

- 室城 秀之(白百合女子大学教授)
- 稲員 直子(日本女子大学大学院生)
- 稲田 路子(白百合女子大学大学院生)
- 上原 作和(放送大学非常勤講師)
- 大井田晴彦(東京大学大学院生)
- 佐藤 信一(白百合女子大学助教)
- 正道寺康子(洗足学園短期大学非常勤講師)
- 中山 陽子(清泉女子大学非常勤講師)
- 宮谷 聡美(白梅学園短期大学非常勤講師)
- 江戸 英雄(国文学研究資料館助手)

近世和歌御会の基礎的研究

- 和田 道子(中京大学教授)
- 赤松 万里(鳴門教育大学助教)
- 大石 房子(放送大学非常勤講師)
- 坂内 泰子(共立女子短期大学非常勤講師)
- 松村 雄二(国文学研究資料館教授)
- 山田 直子(国文学研究資料館助手)



彙

報

委員会日誌

平成10年

9月2日 図書選定小委員会

(第二回)

9月11日 原本テキストデータ

ベース監修委員会議

(第二回)

9月25日 原本テキストデータ

ベース委員会

(第二回)

10月6日 図書選定小委員会

(第三回)

10月23日 国文学文献資料調査

員会議(中部地区)

11月4日 図書選定小委員会

(第四回)

11月16日 国文学文献資料調査

員会議(九州地区)

11月19日 国際日本文学研究集

回委員会(第二回)

12月8日 大学院設置準備委員

会(第一回)

12月17日 図書選定小委員会

(第五回)

12月17日 共同研究委員会

12月22日 情報システム専門委

員会

平成11年

1月12日 大学院設置準備委員

会(第二回)

1月12日 大学院教育協力委員

会(第二回)

1月19日 国際日本文学研究集

委員会(第三回)

1月28日 情報システム委員会

1月29日 原本テキストデータ

ベース委員会

(第三回)

2月4日 国文学文献資料収集

計画委員会

(第二回)

2月9日 大学院設置準備委員

会(第三回)

2月10日 図書選定小委員会

(第六回)

運営協議員会の開催について

本年度第二回運営協議員会が平

成十年十一月十六日(月)に開催

され、教官人事、管理運営の概況

について協議が行われた。

本年度第三回運営協議員会が平

成十一年一月二十九日(金)に開

催され、教官人事について協議が

行われた。

本年度第四回運営協議員会が平成

十一年二月二十二日(月)に開催

され、管理運営の概況、平成十一

年度予算内示及び科学研究費補助

金、平成十一年度事業計画、平成

十一年度共同研究計画について協

議が行われた。

評議員会の開催について

本年度第二回評議員会が平成十

一年三月二日(火)に開催され、

管理運営の概況、平成十一年度予

算内示及び科学研究費補助金、平

成十一年度事業計画、平成十一年

度共同研究計画について評議が行

われた。

外国出張

福田 千鶴

渡航先 アメリカ合衆国

目的 米国議会図書館所蔵

の日本古典籍(政治

経済史文献)の調査

期 間 平成10年8月27日

平成10年9月5日

松野 陽一

渡航先 大韓民国

目的 ソウル大学附属図書

館所蔵の日本関係資

料調査及び打合せ

期 間 平成10年9月10日

平成10年9月13日

山崎 誠

渡航先 ロバート・キャンベル

目的 オランダ王国

日本絵画資料の悉皆

調査

期 間 平成10年9月15日

平成10年9月26日

高木 俊輔

渡航先 青木 睦

目的 ドイツ連邦共和国

オランダ王国

連合王国

イタリア共和国

目的 在欧日本史料の所在

と現状に関する調査

期 間 平成10年9月19日

平成10年10月4日

安藤 正人

渡航先 ドイツ連邦共和国

オランダ王国

連合王国

イタリア共和国

目的 在欧日本史料の所在

と現状に関する調査

期 間 平成10年9月19日

平成10年10月11日

渡辺 浩一

渡航先 ドイツ連邦共和国

オランダ王国

期 間	目 的	渡 航 先	岡 雅 彦	期 間	目 的	渡 航 先	安 藤 正 人	期 間	目 的	渡 航 先	山 田 哲 好	丑 木 幸 男	期 間	目 的	渡 航 先	連 合 王 国
平成10年10月27日	欧州における日本古 典研究の歴史的研究	ドイツ連邦共和国 チェコ共和国		平成10年10月26日	アーキビスト養成国 際シンポジウム出席			平成10年10月4日	と現状に関する調査 と現状に関する調査	イタリア共和国 フランス共和国		平成10年10月23日	在欧日本史料の所在 と現状に関する調査			
期 間	目 的	渡 航 先	武 井 協 三	期 間	目 的	渡 航 先	松 野 陽 一	期 間	目 的	渡 航 先	新 藤 協 三	期 間	目 的	渡 航 先	渡 辺 浩 一	平成10年11月12日
平成10年12月27日	フランス共和国 同構築と利用に関する研究			平成10年11月21日	史の尼寺文化」出席	アメリカ合衆国		平成10年11月16日	典籍の研究	フランス共和国 在ヨーロッパ和本古		平成10年11月4日	都市史研究シンポジ ウム出席			
期 間	目 的	渡 航 先	鈴 木 淳	期 間	目 的	渡 航 先	原 正 一 郎	期 間	目 的	渡 航 先	山 下 則 子	鈴 木 淳	期 間	目 的	渡 航 先	ラ ン ス と の 学 術 協 定 に 基 づ く 、 在 フ ラ ン ス 日 本 文 献 資 料 調 査 と 研 究
平成10年9月30日	ベルギー王国 日本資料専門家欧州 会議出席及び日本資 料調査			平成11年2月7日	欧州における日本古 典籍の調査及び打合 せ	ドイツ連邦共和国 イタリア共和国		平成10年12月20日	と研究	フランス共和国 ロバート・キャンベル		平成11年1月2日				

平成10年10月4日

人事異動(平成10年9月～平成11年2月)

○平成10年10月1日付け

(併任)

小野 恭靖(文献資料部助教)

(大阪教育大学教育学部助教

から)

(平成10年10月1日)

平成11年3月31日)

○平成11年1月1日付け

(転出)

松浦 孝則(管理部会計課長)

(福岡教育大会計課長)

(転入)

松浦 晃幸(管理部会計課長)

(文部省教育助成局財務課給与

係長から)

資料館ホームページ

国文学研究資料館はホームペ
ージを開設しています。

<http://www.nijl.ac.jp/>

にアクセスしてみてください。

特別共同利用研究員（大学院生）

の受入れについて

国文学研究資料館では、当館での研究指導を希望する大学院生を受入れます。

当館では昭和五四年度から大学院生の受け入れを行ってきましたが、平成十年度よりこの制度を発展させ、ひろく全国的に大学院生の参加を募っています。

詳細については、一月中旬に各大学院へ送付した応募案内をご覧ください。または、当館庶務課共同利用係（電話〇三―三七八五―七二三―内線二一〇・二二一）に直接「特別共同利用研究員受入要領」を御請求ください。

概要

- 受入人数 十名程度
- 受入対象 大学院の修士課程または博士課程に在学し、日本文学及び日本史学等を専攻し、文献学、書誌学、史料管理学等に関する分野に興味をもつ学生。
- 授業料 無料
- 受入決定 当館大学院教育協力委員会において審査のうえ決定し、

その結果を所属する大学院の研究科長および本人に通知する。

研究課題・指導教官（予定）

- 平安私歌集・私撰集の研究 新藤協三
- コンピュータを使った古典研究 中村康夫
- 中古・中世の和歌文学の研究 浅田 徹
- 和歌文学の文化史的研究 松村雄二
- 中世学問史研究 山崎 誠
- 中世文学の研究、特に能に関する研究 落合博志
- 中世歌人とその周辺に関する研究 田淵句美子
- 江戸初期の文学と出版文化 岡 雅彦
- 「奥の細道」本文校訂の試み 上野洋三
- 近世学芸史の研究、特に和学に関する研究 鈴木 淳
- 歌舞伎・浄瑠璃 武井協三
- 草双紙における芸能受容の研究 山下則子

- 近代文学の研究 谷川恵一
- 十八世紀後半から明治期にいたる漢文学・学芸史
- ロバート・キャンベル

情報国文学の研究

安永尚志・原正一郎

近世史料の研究 高木俊輔

近現代史料の研究 鈴江英一

近代民間史料の研究

丑木幸男

記録史料学の研究 安藤正人

近世史料学の研究 山田哲好

幕府・藩の組織構造と文書群の史学的研究 大友一雄

近世都市史の研究渡辺浩一

史料管理学の研究 高木俊輔

鈴江英一・丑木幸男・安藤正人・山田哲好・大友一雄・渡辺浩一

雄・渡辺浩一

夏季セミナー受講生の募集

当館では、国文学と日本史学を専攻する大学院生（修士課程・博士課程）を対象として、毎夏「原典講読セミナー」を開催している。これは、上に記した一年をサイクルとする特別共同利用研究員（大学院生）受入とは別の、ごく短期間のセミナーである。

日程はまだ決定されていないが、今年も八月下旬に開講の予定である。募集人員は約十五名、応募者が多数の場合は、当館で選考する。受講料無料（講義資料実費徴集）。講義の内容は未定であるが、担当者、次の予定である。

大友一雄助教（近世史・史料管理学）、新藤協三教授（中古和歌文学）、田淵句美子助教（中古・中世和歌文学）、中村康夫助教（中古物語）、山下則子助教（近世文学・近世演劇）。

このセミナーは平成五年より開催され好評を得ており、今夏は七回目となる。研究の視野の拡大と、深化をはかる貴重な機会として、ふるって応募していただきたい。

なお、このセミナーの講義は、「セミナー原典講読」シリーズとして、平凡社・臨川書店より順次刊行されている。

セミナーについての照会先は、当館共同利用係（〇三―三七八五―七二三―内線二一〇・二二一）

利用者へのお知らせ

◆国立国会図書館のサービス区分変更について

今まで国立国会図書館のマイクロ資料の全頁複写を希望する場合、事前に許可が必要(サービス区分D)でしたが、平成十年十二月から、許可不要になり、新たにポジフィルムも可(サービス区分A)となりました。

◆OPACが変わります

当館のオンライン所蔵検索(OPAC)をリニューアルします。

新しいOPACはインターネットのブラウザから特別な接続手続きなしに検索できるようになります。また、今まで冊子体でご利用いただいていた当館所蔵の逐次刊行物目録のデータもOPACで検索できるようになります。

サービス開始時期は五月中旬を予定しています。

操作方法など詳細は当館のホームページ(<http://www.nijiac.jp/>)をご覧ください。

◆「マイクロ資料目録縮刷版」の市販について

「国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録」は、発行部数に限りがあり、一部の機関にしか配布できないのが現状です。そこで、縮刷版を別途刊行し市販しています。第二冊目の一九九七年版が、二月に発行されました。(笠間書院刊、定価六、五〇〇円)

◆CD-ROM版等の利用案内
次のものが利用できます。
・和泉式部日記(同朋舎出版)
・学術雑誌総合目録(丸善)
・蜻蛉日記(同朋舎出版)
・雑誌記事索引(国立国会図書館)
・新編国歌大観(角川書店)
・八代集(岩波書店)
・風俗画報(ゆまに書房)

◆利用案内
利用資格
学術研究のために当館の資料を必要とし、かつ、次のいずれかに該当する場合

- ・中日/日中統合辞典 国際版 (小学館)
- ・土井本 太平記(勉誠出版)
- ・平安遺文(東京堂出版)
- ・武者小路家寄託資料の返却について

これまで武者小路家からお預かりしていた資料(柿本人麻呂像)ほか五点)は、昨年六月、武者小路家からの申し出により、返却いたしました。

◆利用案内
利用資格
学術研究のために当館の資料を必要とし、かつ、次のいずれかに該当する場合

開室及び休日一覧 (11.4.1~11.9.30)

●印は休室日													
■ 閲覧時間 9:00~17:00				■ 複写受付時間 9:30~15:30									
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒
㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙
㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲
㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵
㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷
㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼
㊽	㊾	㊿	①	②	③	④	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾
⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	㊼	㊽	㊾	㊿	①	②	③
⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	㊽	㊾	㊿	①	②	③	④
⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㊾	㊿	①	②	③	④	⑤
㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㊿	①	②	③	④	⑤	⑥
㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
㊼	㊽	㊾	㊿	①	②	③	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
㊽	㊾	㊿	①	②	③	④	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
㊾	㊿	①	②	③	④	⑤	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
㊿	①	②	③	④	⑤	⑥	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲
⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑
⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒
⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓
⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔
⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖
⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗
⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙
⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚
⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛
⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜
㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝
㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞
㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱
㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲
㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳
㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴
㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵
㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶
㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷
㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸
㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹
㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺
㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻
㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼
㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽
㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾
㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿
㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	①
㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	①	②
㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊼	㊽	㊾	㊿	①	②	③
㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊽	㊾	㊿	①	②	③	④
㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊾	㊿	①	②	③	④	⑤
㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㊿	①	②	③	④	⑤	⑥
㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	①	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	①	②	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
㊼	㊽	㊾	㊿	①	②	③	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
㊽	㊾	㊿	①	②	③	④	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
㊾	㊿	①	②	③	④	⑤	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
㊿	①	②	③	④	⑤	⑥	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲
⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑
⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒
⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓
⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔
⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖
⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗
⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙
⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚
⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛
⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜
㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝
㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞
㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱
㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲
㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳
㉗	㉘												

平成11年度

春季学会

①事務局 ②学会開催日 ③会場

解釈学会

①〒170-0004 豊島区北大塚3-29-2
教育出版センター内 03-5394-
1203 ②8月24日 ③国文学研究
資料館

訓点語学会

①〒155-0032 世田谷区代沢1-20-
10 03-3487-4891 ②5月28日

同志社大学

芸能史研究会

①〒602-0855 京都市上京区河原
町通荒神口下る上生州町221 キ
トウビル303号 075-251-2371

②6月13日 ③京大会館

国語学会

①〒113-0033 文京区本郷7-3-1
東京大学文学部国語研究室内
03-3812-2111 ①事務取扱 〒
113-0033 文京区本郷1-13-7 日吉
ハイツ404 03-5802-0615 ②5月
29・30日 ③同志社大学

古事記学会

①〒466-8666 名古屋市昭和区八
事本町101-2 中京大学文学部国
文学研究室内 052-832-2521内
6202 ②6月12・13日 ③お茶の
水女子大学

上代文学会

①〒156-8550 世田谷区桜上水3-
25-40 日本大学文理学部国文学
研究室内 03-3329-1151 ②5月22
~24日 ③高岡市高岡文化ホール
昭和文学会

①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-

5 笠間書院内 03-3295-1331

②6月12日 ③東洋大学

説話・伝承学会

①〒604-8456 京都市中京区西ノ
京壺ノ内町 花園大学丸山顕徳研
究室内 ②5月1・2日 ③桃山学
院大学

説話文学会

①〒305-8571 つくば市天王台1-1-
1 筑波大学文芸言語学系稲垣研
究室 0298-53-4136 ②6月26~
28日 ③筑波大学

全国大学国語教育学会

①〒739-8523 東広島市鏡山1-1-2
広島大学教育学部国語教育学研究
室内 0824-24-6790 ②8月2・3
日 ③筑波大学附属小学校

全国大学国語国文学会

①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-
6 畑山第1ビル (株)おうふう気付
03-3294-0857 ②6月5・6日 ③
東洋大学

中古文学会

①〒175-8571 板橋区高島平1-9-1
大東文化大学文学部日本文学研究
室内 03-3935-1113内3128 ②5
月8・9日 ③大東文化大学(東松
山校舎)

中世文学会

①〒102-8336 千代田区三番町6-16
二松學舎大学大学院文学研究科国
文学専攻松本寧至研究室 03-
3261-7406 ②5月28~30日 ③二
松學舎大学

日本演劇学会

①〒194-8610 東京都町田市玉川
学園6-1-1 玉川大学文学部芸術
学科演劇研究室内 FAX042-739-
8092(上野宅) ②5月28~30日
③多摩美術大学

日本歌謡学会

①〒182-0001 調布市緑ヶ丘1-25
百合女子大学外村研究室内
03-3326-5050 ②5月22・23日
③百合女子大学

日本近世文学会

①〒156-8550 世田谷区桜上水3-
25-40 日本大学文理学部国文学
研究室内 03-5317-9706 ②6月
19・20日 ③日本女子大学

日本近代文学会

①〒259-1292 平塚市北金目1117
東海大学文学部日本文学科第2研
究室内 0463-50-2196 ②5月
22・23日 ③早稲田大学

日本口承文芸学会

①〒150-8440 渋谷区東4-10-28
國學院大学文学部伝承文学研究
室内 03-5466-0224 ②6月6・7日
③沖繩国際大学①〒112-0012 文京区大塚3-29-1
日本教育研究連合会第三研究室内
03-3941-3420 ②7月31日・8月1
日 ③国立教育会館虎の門ホール

社団法人 日本語教育学会

①〒101-0065 千代田区西神田2-4-
1 (財)東方学会新館2F 03-3262-
4291 ②5月22・23日 ③麗澤大
学日本社会文学会
①〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-
1 早稲田大学教育学部杉野研究
室 03-5286-1587 ②6月12・13
日 ③小田原市民会館

日本比較文学会

①〒411-0033 静岡県三島市文教
町2 日本大学国際関係学部内 秋
山正幸研究室 0559-80-0777 ②
6月19・20日 ③福岡大学

日本文学協会

①〒170-0005 豊島区南大塚2-17-
10 03-3941-2740 ②7月3・4日
③愛知淑徳大学

日本文芸研究会

①〒980-8576 仙台市青葉区川内
東北大学文学部国文学研究室内
022-217-5957 ②6月12・13日
③東北大学

日本文体論学会

①〒110-0004 台東区下谷1-5-34
榊三修社内 03-3842-1711 ②6
月11・12日 ③カリタス女子短期
大学

日本方言研究会

①〒192-0397 八王子市南大沢1-1
東京都立大学国語学研究室内 日
本方言研究会幹事 0426-77-2135
①〒115-8620 北区西ヶ丘3-9-14
国立国語研究所気付日本方言研
究会幹事 03-5993-7630 ②5月28
日 ③同志社大学

表現学会

①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-
6 畑山第一ビル2F 03-3295-
8774 ②6月5・6日 ③武庫川女
子大学

日教文学会

①〒604-8456 京都市中央区西ノ
京壺ノ内町8-1 花園大学文学部
国文学研究室内 075-811-5181
②6月5・6日 ③花園大学

印刷 株式会社三協社

FAX (三七八五) 七〇五一

電話 (三七八五) 七一一一

郵便番号 一四二八五八五

東京都品川区豊町一六一〇

国文学研究資料館

編集・発行者

平成十一年三月発行

国文学研究資料館報 第五二号